

日本のモノづくりの未来を創る

人材不足を支えるつくり手採用支援プロジェクトが開始

～プロジェクトの意義と想い～

今回、株式会社スタッフサービス 執行役員でエンジニア領域事業の本部長を務める山崎さんと、株式会社エンクル 代表取締役社長の山本が対談しました。伝統技術やつくり手の情熱を守りながら、後継者不足という深刻な課題にどう向き合うか。

「経験やスキルだけでなく、本当に大切な“想い”に寄り添う」—山崎さんは、これまでの経験や原体験を交えながら、これからの日本のモノづくりについて熱く語ってくれました。



本プロジェクトと概要について

株式会社エンクルは自社運営のECギフトサービス「colettene」を通じ、全国各地で伝統技術や先端技術に情熱を注ぐ“つくり手”と出会ってきました。その中で、後継者不足に悩む現実を目の当たりにしてきました。

この度、モノづくり領域で多くのエンジニアを育成・創出してきたスタッフサービス・エンジニアリング（株式会社スタッフサービス エンジニアリング事業本部）と協働し、後継者不足解消に取り組むプロジェクトを発足します。

本プロジェクトでは、採用支援を希望するつくり手企業の求人をエンクルからスタッフサービス・エンジニアリングに共有し、スタッフサービス・エンジニアリングから“つくり手”に対し、つくり手の想いに共感し

た意欲ある人材をご紹介します。

エンクルは採用支援を希望するつくり手企業の商品を購入します。これにより、一般的な採用活動でかかる求人掲載費や紹介手数料などのコストが商品売上で担保され、採用支援を希望するつくり手企業の採用活動にかかる実質的な負担を最小限に抑えます。

つくり手企業は資金的な負担を抑えながら、必要な人材と出会う機会を得ることができます。エンクルは購入した商品を在庫として確保しつつ、「colettene」にて販売を実施します。

山本)

本日は、プロジェクトへ参画をしてくださった背景や、スタッフサービス・エンジニアリングが大切にしていること、なぜ「想い」に寄り添う」という価値観を持つに至ったのか、というお話を伺いたいと思います。

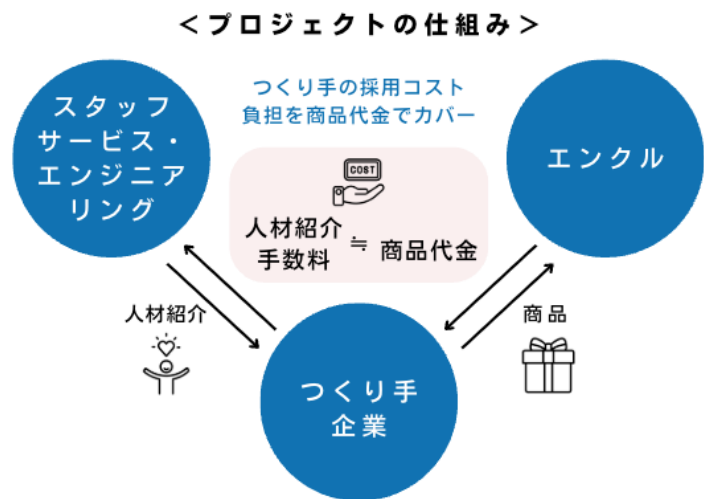
最初に、なぜこの取り組みに賛同し、協働しようと思われたのかを教えてください。

山崎)

理由は大きく二つあります。

一つ目は、私自身が新卒でスタッフサービスに入社し、モノづくり業界の人材派遣の営業を担当してきた経験があることです。従業員数名の町工場から日本を代表する大手メーカーまで、さまざまなお客様を担当する中でお会いしたモノづくりに携わる方々は、どなたも自分が携わっている製品について目を輝かせながら語ってくれました。その姿に感動し、応援したい、ビジネスの枠を超えてでも日本の未来に貢献したいと強く思うようになりました。

二つ目は、御社のビジネスへの情熱に共鳴したからです。一緒に取り組むことで、よい化学反応が生まれ、つくり手が抱える、後継者不足という課題の解決に貢献できると感じました。



モノづくりへの共感が生まれた原体験



山本)

私たちもつくり手の皆さんに直接会い、実際に話を聞く中で、製品に対する熱い想いを感じてきました。山崎さんご自身が特に心を動かされたエピソードがあれば、ぜひ教えてください。

山崎)

営業時代、通信機器のコネクターを作っているお客様を担当した際に聞いた、あるエンジニアさんの言葉が今でも強く印象に残っています。

「俺たちは海底ケーブルを這わせて、日本の通信を守るのが仕事だ。でも、何のために作っているか分かるか？売上や利益のためじゃない。みんなが“当たり前”に通信できる生活を守ること、それが俺たちの価値だ。」

その言葉を聞いて、「かっこいいな」と心から思いました。私が新卒1、2年目の頃の出来事ですが、十数年経った今でも強く記憶に残っています。

また、大阪や茨城で働いていた時、後継者不足に悩む企業の話をよく耳にしました。

例えば「この機械を使う人は俺で最後。使うのにコツがいるが、それを教えられるのは俺しかなくて、後継者はいないんだ」と話を伺ったことがあります。その言葉に、モノづくりの儚さと切実さを感じ、この問題を何とかしたい、向き合いたいと思うようになりました。

“想いと技”を未来へ紡ぐために

山本)

モノづくりに携わる方々の熱い想いに触れ、現場で抱える人材問題を目の当たりにされてきたのですね。今回の取り組みに対しては、どんな気持ちをお持ちですか？

山崎)

後継者不足の解決は、かねてより実現したいことでしたので、御社との出会いは絶好のタイミングでした。私自身、このプロジェクトに取り組めることに喜びを感じています。モノづくりをはじめ、何かに熱い想いを込めて挑戦する姿勢は、かっこいいと感じます。製品ひとつひとつに想いが込められ、使う側に伝わっていく。目には見えないけれど、心を込めた製品だけに宿る価値があると感じています。今回のプロジェクトで、つくり手の方々の想いを受け継ぐ人材を紹介することで、新たな後継者の育成につながり、未来の世代に技術と想いを受け継いでいくことができると考えると、胸が熱くなります。

山本) 我々はギフトサービス「colettene」を通じて想いを伝え、御社は人を紹介することで想いを次へ繋いでいく。根底にある目的に共感しました。

山崎)

まさにその通りです。スタッフサービス・エンジニアリングでは、未経験からエンジニアとしての第一歩を踏み出す方が多く、その支援を大切にしています。その結果、新たにエンジニアとして活躍し始めた方から「これができるようになった」「こんなスキルを習得した」という成長の報告を受けるのです。その時のエンジニアの方々は本当に輝いて見えますし、そんな報告を受けるたびにとても嬉しい気持ちになります。彼らの成長が、熱い想いを込めた技術や製品づくりに結びついているなら、なおさら素敵だと思います。

山本)

これまでの事業を通じてエンジニアの皆さんと向き合ってきたご経験がその想いに繋がっているのですね。

“誰もがエンジニアを目指せる世界”を実現する使命感

山崎)

スタッフサービス・エンジニアリングには「誰もがエンジニアを目指せる世界へ」という事業理念があります。経験のある方がモノづくりの仕事に就くことももちろん尊いのですが、“誰もが”という視点でやりたいことや叶えたいことを形にするチャンスを広く提供すべきだと思っています。かつて夢を諦めた方にも、スタッフサービス・エンジニアリングを通して働くなかで、さまざまな選択肢があることを実感してもらえたら、とても素敵だと思います。完全には実現できていない部分もありますが、「夢を描ける環境」と「夢を叶えるための選択肢」をより多く創出する企業になればと強く思っています。

山本)

人は知らず知らずのうちに可能性に蓋をしてしまうこともあります。その可能性を引き出し、実現の手段を提供するという考えは非常に素晴らしいですね。

改めて、山崎さんが執行役員に就任され、事業理念に本気で向き合おうと決意された背景をお聞かせいただけますか？



山崎) 私は、入社してからずっとお客様の現場を見てきました。お客様を見てきた数なら、誰にも負けない自信があります。技術に対する関心も強かったので、よくお客様と共に現場へ赴いたり各種ツールに触れたりもしていました。すると、だんだんこの事業の価値は、単に売上や利益を上げるのではなく、エンジニアやエンジニアになりたい方に寄り添い、「何かを成し遂げた」と一人でも多くの方が喜べる社会を創ることだと実感するようになりました。

山本)

長年この事業領域に携わってこられたからこそ、ご自身の使命になっているのですね。

山崎)

そうです。さらに、大学時代に教師を志していた経験も大きく影響しています。誰かが何かを成し遂げたときの笑顔や、全力で夢に挑む姿に魅了されました。そのキラキラした輝きは、学生だけでなく、何かを学びたい方や、挑戦したい方などすべての人に共通するものだと気づかされました。

山本)

ところで、山崎さんが「カッコいい」と感じる人というのは、具体的にはどのような方なのでしょうか？

山崎)

例えば、私が教師を目指すきっかけとなったある先生です。その先生は車が大好きで高級車を購入されたのですが、その高級車の後ろにグラウンド整備用のトンボという道具をつけ、ぐるぐる車を走らせながら整備してくれて。結果、車は真っ黒になってしまいましたが、それくらい無邪気に一生懸命、人のことを想って行動する姿は、本当にかっこいいと思いました。今回の人材支援プロジェクトに参加されるづくり手の皆さんも、誰かのために想いながらモノづくりに取り組まれており、私の目には非常にかっこよく映っています。

山本)

かっこよさというのは、人に対して熱い想いで向き合う姿そのものを表しているのでしょうか？

山崎)

その通りです。人のために全力を尽くす姿は、やはりカッコいいです。日々エンジニアに向き合っている弊社の社員も、常に人のことを考えながら業務に取り組んでいます。私は、この事業を通して誰もが安心して自分らしくいられる居場所をつくりたいと考えています。社員であっても本音が言いにくい環境を多く見聞きます。自分らしくいられて弱音を吐いてもよい場所があれば、互いにもっと支え合えると思うのです。「自分の居場所がある人ほど人に優しくできる」というのが、私の信念です。

山本)

なぜ、そのような居場所づくりを大事にしようと思われたのでしょうか？

山崎)

組織が成長し規模が大きくなる中で、“いろいろな方がいる”ということを改めて実感しました。エンジニアを志してスタッフサービス・エンジニアリングに入社するエンジニアも、20代～60代と幅広い年齢層で、これまでのご経験や仕事に対する想いもさまざまです。

「何のために働くのか」「なぜ働くのか」は人それぞれで、価値観は多様です。各々が個性を存分に発揮できる環境をつくるのが、会社の価値を最大限に高めると考えています。

山本)

ちなみに、事業の規模について、スタッフサービス・エンジニアリングとしてはどのような数字を目指しているのか、教えていただける範囲でお聞かせいただけますか？

山崎)

スタッフサービス・エンジニアリングでは、来期には約2万人の就業人数を目指しています。これは技術者派遣の業界内でもトップクラスの数字です。私たちは業界をリードする側に立つと同時に、その分、責任の重さも日々増していると感じています。

山本)

非常に重要で責任ある大きな取り組みですね。ありがとうございます。

今後の展望



山本)

最後に、今回のモノづくりに情熱を注ぐ方々への採用支援プロジェクトについてお聞かせください。山崎さんのお考えでは、どのような位置づけで、どのような展開を期待されていますでしょうか？

山崎)

一番の願いは、後継者不足に悩むつくり手の方々と、モノづくりに携わりたい方が、相思相愛の関係を築くことです。

未経験でも、想いがあればチャレンジできる環境を作り、後継者としてしっかり指導を受けていく。そうすることで、「こんなことができるようになった」という声が届くようになれば、非常に嬉しいですね。やりたい仕事、就きたい仕事、自分にしかできない仕事だと実感する方をひとりでも多く増やすことが、私たちの目指す姿であり、日本のモノづくりを支える大きな原動力になると確信しています。

山本)

ありがとうございます。伝統技術や優れた技術、そして熱い想いをもってモノづくりに取り組む方々の多くは、小規模の企業であり、深刻な人材不足に直面しています。今回のプロジェクトが、その現場に真摯に向き合う一助となることを改めて感じました。本日はありがとうございました。
